

# クリスマス・ツリーと スミ子さんのお話

1

武田雪夫

さあ、今から、クリスマス・ツリー・ミスミ子さんのお話をしませうね。

そら、クリスマス・ツリー・ミスミ子さんは、ご存じでせう。クリスマスの時、お室に立てて、色んなおかしりを  
する青い木のごきごきですな。

ある日のごき、スミ子さんは、

「ねえ、お母さま、今日でせう。クリスマス・ツリーを立てて下さるのは今日でせう。」

さう言つて、お聞きしました。

さうするに、お母さまは、

「さうですよ。今日、これからお晝のご飯をすましたら、大通りのお花屋さんへ、買ひに行くのですよ。他のお買物もありますけれど、スミ子さんも、つれて行つて上げませう。」

さう、おつしやいました。

スミ子さんは、大よろこびで、おこなくお晝のご飯を頂きました。

さあ、それでは、お買物に出かけませう。

「ねえやさん、行つて來ます。お留守をたのみますよ。」

さう言つて、お母さまは、スミ子さんをお手手をつないで、大通りの方へ歩いて行きました。さあ、それでは、まつ一ばん先に、お花屋さんへ行きませう。

お花屋さんには、クリスマス・ツリーが、ごつさりごつさりありました。ツリーには、チカチカミがつた細かい葉ツばが、一めんについてゐます。

スミ子さんは、

「クリスマス・ツリーつて、松の木みたいですよわね。」

さう、お母さまに言ひました。

すむら、お母さまは、

「ええ、ほんごにさうだね。でも、これは松ではありませんよ。これはドイツ唐檜さうひといふ木ですよ。」

さう言ひながら、お手ぶくろをはめたままのお手で、ツリーを引出して、あれやこれや、色々ながめでいらつしやいました。

「それでは、これにしませう。これを、あまで届け下さいな。」

さう、お花屋さんに言つて、お金をおはらひになりました。

「ツリーには、根のついてゐるのよ、根のついてゐないのよ両方ありました。お母さまのお買ひになつたツリーには、根があつて、黒い土が少しついてゐました。

スミ子さんは、

「お母さま、さうして、根のあるツリーをお買ひになつたの？」

さう、お母さまにお聞きして見ました。

するよ、お母さまが、おつしやいました。

「この木はね、クリスマスがすんだら、お庭におろして、植ゑておくのですよ。さうするよ、來年は、これよりも、すつこ大きくなつてゐるでせう。」

スミ子さんは、それを聞くよ、うれしくなつて、思はず、

「まあ！」と言ひました。

スミ子さんよ、お母さまは、お花屋さんを出るよ、こんごは、お菓子屋さんへ行きました。そしてスミ子さ

んの大すきなお菓子を、さつさり買つて頂きました。それから、お洋服屋さんや、お肉屋さんや、方々のお店によつて、たくさんお買物をしてからお家へ歸りました。

2

お家へ入らうとするに、お玄關のところで、もうちゃんこ、さつきのツリーが持つて來てありました。

お母さまは、お家の裏の方から、大きな植木鉢を一つ持つて來て、きれいにお洗ひになりました。そして、クリスマス・ツリーを、その中へ上手にお植ゑになりました。少し土を入れて、ぐらぐらしないうちに、ちゃんこお植ゑになりました。そして、スミ子さんのお筆のまん中にお置きになりました。

それから、お母さまは、にこにこして、

「スミ子さん、今にお父さんが、きつこ、よいものを持つておかへりですよ。」

さう、おつしやいました。

スミ子さんは、すぐに、お聞きしました。

「なアに、お父さんのつて。」

お母さまは、やはり、にこにこしながら、

「お父さんのつてね、それはそれは、よいものなのですよ。」

さう、おつしやいました。まあ、ほんまに何でせうね？それはそれはよいものなのですッて。

スミ子さんは、一寸考へてゐましたが、

「——ああ、わかりましたわ、わかりましたわ。」

さう言ひました。お母さまは、

「さう、ぢぢあ、あててごらんさい。」

「あのね、あのね。このツリーに、おかざりするものでせう。キラキラのお星さまや、鐘や、それから……

……………。」

「ええ、さうですよ。今日はお父さまが、きれいなおかざりを、さつさり買つて来て下さるお約束なのです  
」よ。」

スミ子さんは、それを聞くに、ほんたうにうれしくなつて、

「まあ、みんなに、きれいでせうね。ほんまに、うれしいわ。」

さう言つて、おみなしく一人で遊んでゐますよ、だんだん夕方になつて來ました。

おや、お玄關の呼鈴です。

スミ子さんは、

「ああ、お父さまよ。きつち、お父さまよ。」

さう言ひながら、お玄關へ飛出して行きました。お母さまも、出ていらつしやいました。ねえやさんが、お玄關の戸を開けて見ましたら、やつぱりお父さまでした。

スミ子さんは、よろこんで、大きな聲で、

「お父さま、おかへりなさい。」

さう言つて、ごあいさつをしました。そして、

「あの、クリスマス・ツリーにおかざりするものは、買つて来て下さつたの？」

さう言つて、お聞きしました。

するさ、お父さまは、お首を振りながら、

「はいはい、只今。そら、ごつさり買つて來ましたよ。」

さう言つて、お靴を一しよに抱へていらした、紙に包んだ四角な箱を、スミ子さんの手に渡して下さいました。

スミ子さんが、開けて見るさ、箱の中には、クリスマス・ツリーにおかざりする、きれいなものが、一ぱい

入つてゐました。

スミ子さんは、うれしくなつて、大きな聲で、

「まあ！」と言つて、すぐに箱の中のものを出して見ました。

——キラキラ光つたお星さまや、小さな鐘や、かはいいサンタクロースのお人形や、太い四角な煙突のついた小さなお家が出て來ました。それから、赤や青の、きれいな小さなお蠟燭や、いろいろな色のお紐のやうなものが、ごつさり出て來ました。

晩のご飯をすすすき、スミ子さんは、お父さまやお母さまにご一しよに、ツリーにおかざりをつけはじめました。

ツリーの一番高いところへ、一ばん大きなお星さまをつけました。それから、枝の先の方へ、サンタクロースのお人形や、煙突のついたお家を、一生けんめいに結びつけました。

お母さまは、むかふのお部屋から、白い綿を持つていらつしやいました。そして、少しづつちぎつて、青いツリーの枝のあちらこちらへ、おのせになりました。さうするき、ほんたうに枝の上へ、雪が降つたやうになりました。

お父さまは、赤や青のお紐のやうなものを、あちらの枝から、こちらの枝へダラダラミかけまはしていらつしやいました。

スミ子さんが、

「それ、なめたっ？」

さうお聞きします、お父さまは、

「これはね、モールのつかひのすすま。」

さう、お答へになりました。

4

そら、もう、これで、すっかりきれいにおかざりが出来ました。

スミ子さんは、大よろこびで、にこにこしながら、きれいになったツリーのそばに立つて見ました。

さうするさ、お父さんが、

「おや、スミ子のせいの高さは、このツリーと、ちやうど同じ高さです。ほら、ね。」

さう、お母さまにおつしやいました。

するさ、お母さまが、

「ほんた。それでは、來年は、ツリーミスミ子と、どちらが大きくなるでせうね。この次のクリスマスまで、大きくなりつこの競争をするのですね。」



お父さまが、また、笑ひながら、

「お庭に植ゑておいたら、きつこ、ツリーも、ずんずん大きくなるから、スミ子も、まけずに大きくなるならなくて駄目ですよ。」

さう、おつしやいました。

さあ、それでは、來年のクリスマスまでに、ごちらが大きくなるでせうね。

そら、お家の中のスミ子さんも、お庭のツリーも、ごちらも、ぎんぎん大きくなつて行くでせう。まあ、ほんごに、ごちらが勝になるでせう。

はい、それでは、このクリスマス・ツリー・ミスミ子さんのお話は、これで、おしまひです。